

自信につながる保育の積み重ね

～「お店やさんごっこ」の実践報告～

学校法人南陵学園 旭幼稚園

報告者 高橋 睦美

谷古宇 梓

中村 早希

1. はじめに

幼稚園の生活は、それぞれの家庭での育ちをもとに、子どもたちが同年代の友だちとともに新しい人間関係を形成し、集団生活をするることである。その園生活において人格形成の基礎となるのは、子どもたち一人ひとりの中に育つ自信であると考え。園生活で得た自信は、その子の成長につながり、いわゆる生きる力になり、将来の可能性を広げる。

自信をもつという経験は、園生活の中でさまざまな時期や場面でみられるが、ここでは、本園が約一ヶ月をかけて、年長児を中心に全園児の活動である「お店やさんごっこ」で育っている様子を追ってみる。

2. 本園の概要と教育目標

①園の概要

本園は、東京都に隣接する埼玉県川口市の東側にあたる緑豊かな新郷地区にある。

1クラス約25～30名のクラス編成で、年長組4クラス、年中組4クラス、年少組3クラス、計11クラス、全園児数は283名。年少組は各クラス2名の保育者、年中組は各クラス1名、年長組は各クラス1名（1クラスのみ補助1名）、が配置されている。合計29名の教職員が在籍している。

保育内容は、横割り活動・縦割り活動を取り入れたり、保護者の自由参加の機会を取り入れたものも多い。知識や技術を教えることより、集団生活での友だちとの関わり（ルール、相手の気持ちの気づき、自己表現など）を大切にしている。

②教育目標・指導目標

知・徳・体育の調和を図り、意思の強い「耐性のある子」の素地を育てる。

- たくましい子
- 心豊かな子
- よく考える子

【年少】	【年中】	【年長】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活に慣れ、喜んで登園し、安定して園生活を楽しむ。 ○ 教師や友だちに関心を持ち、いろいろな友だちとの関わりを体験し、その中で気持ちが出せたり、相手を受け入れ一緒にする楽しさを味わう。 ○ 日常生活に必要な良い習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活に慣れ、喜んでいろいろな活動に取り組む。 ○ 全身を動かして遊ぶ楽しさを味わい、教師や友だちとの関わりを深める。 ○ 基本的な生活習慣を身につける。 ○ いろいろな経験を通して園生活の仕方や生活に必要な言葉を身につける。 ○ 身近な社会や自然現象に興味を持ち、遊びに取り入れ、繰り返しながら発展させて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活を楽しみ、いろいろな遊びを自主的に行うとともに基本的な生活習慣や態度をしっかり身につける。(場に応じた適切な態度がとれる。) ○ 友だち同士の関わりを深め、意欲的、創造的に遊びや課題に取り組み充実感を味わい、豊かな心を育てる。 ○ 自然環境に自分からよく働きかけ、よく見たり、触れたりし、命の大切さを知ったり、知的好奇心を高める。

3. 主な年長児の年間指導内容とねらい

① 進級

- ・ 進級した喜び
 - ⇒バッチの色が変わり、「お兄さん、お姉さん」になったという意識が個々の中で生まれてくる。
- ・ 新入園児との出会い
 - ⇒まだ園生活に慣れない新入園児にやさしく声をかけたり、登降園時や食事の手伝いをする中で年長児としての自覚が芽生え始める。
- ・ 新入園児歓迎会
 - ⇒自分たちでつくったプレゼントを渡したり、歌を歌ったり言葉を贈ったりして新入園児との交流を深める。

- ・ 交通安全指導

⇒道路の歩き方やマナーを年中少児に教えたりして、年長児としての意識を高める。

② お店やさんごっこ

- ・ 横割り活動や縦割り活動を通して、いろいろな友だちとの関わりを深める。
- ・ 自分たちの作った品物を買ってもらったという喜び、達成感を味わう。
- ・ 買い物の疑似体験により、実生活に結びつけようとする力がつく。

③ お泊まり会

- ・ カレー作り

⇒自分たちで掘ったじゃがいも、自分たちで買い物をしてそろえた材料を使って自分たちの力でカレーを作る。

- ・ 園外活動や夜のおまつりや花火

⇒ふだんの園生活とは異なるいろいろな経験をする。

- ・ 宿泊

⇒家庭から離れた場所で生活することで自立への一歩を踏み出す。

- ・ 友だちとの絆

⇒二日間同じ時を共有することで、友だちとの信頼関係が深まる。

④ 運動会

- ・ 鼓笛ごっこ

⇒楽器に親しみ、友だちと音を合わせることを楽しむ。

- ・ マスゲーム

⇒一ヶ月間練習してきた成果をお父さん、お母さんに見てもらうことで得る達成感を味わう。

- ・ 団技

⇒クラスごとに競い、クラスとしての結束力、友だちと協力しあうことの大切さを感じる。

⑤ おゆうぎ会

- ・ 合奏と歌（学年全体）

⇒運動会での経験を生かし、いろいろな楽器を使った合奏や歌を通して、友だちと力を合わせて演奏をする。

- ・ 台詞劇（各クラス）

⇒劇の内容や役割などを自分たちで決め、台詞を覚え、精一杯演技する姿を保育者やお父さん、お母さんに見てもらうことで達成感を味わう。

⑥ 作品展

- ・ 個人制作

⇒一年間を通しての経験画を飾ったり、立体作品を作り上げることで一年間の個々の成長（自信）を見せる。

- ・ 共同制作

⇒これまで培ってきた友だちとの信頼関係をもとに、協力し合って年長全体の大きな作品を完成させる。

⑦ 卒園式

一年間の思い出を言葉や歌を通して表現し、がんばったことや楽しかったことを振り返る。また、これを通して小学生になるという自信につながる。

4. 「お店やさんごっこ」とは

①内容

毎年7月上旬に行われる年間行事のひとつである。年長児が、横割り活動で品物を作り、約1000品程度の品物が出来、年中少児が買い物を行う。

当日は、ホールが会場となり、年長児が「売り手」と「案内係」に分かれる。前半が「売り手」の子どもは後半に「案内係」になるという形で交代で行う。年長児が全部で4店舗開き、年中少児が1つのお店で1品ずつ、計4品の買い物をする。

②経過とねらい

準備・当日

《年長組のねらい》

- ・ いろいろな素材を使い、工夫して品物作りをする。
- ・ 友だちとともに活動する中で、互いに情報交換したり、良いところを取り入れたり、認め合ったりしながら進める。
- ・ 宣伝をしたり、コスチュームを身につけたり、品物を並べたりしながら、準備について考え、積極的に取り組むことで、売り手の役割を楽しむ。

	活動内容
5月21日	学年集会に参加する。 ⇒お店やさんごっこについての話・店舗決定 <u>(やおや・さかなや) (アクセサリーや) (たべもの・おかしや) (おもちゃや)</u>
5月24～6月4日	4つのお店やさんの品物づくりを体験する。(クラス活動)
6月7日	学年集会に参加する。 ⇒・全体の店の名前を決定する。…『きらきらぼけもんだいやもんどせんたー』 ・自分の担当する店を決定する。

6月10日～	品物づくりをする。(横割り活動)
6月14日	年中少児が品物づくりの様子を見学に来る。
6月17日	チラシ、ポスターを作る。
6月21日	コスチュームを作る。
6月25日	品物に値札をつける。
6月28日	年中少児のクラスへ宣伝に行く。(クラス活動)
7月1日	お店やさん、開店!

その後の活動

《ねらい》

- ・品物の作り方を年中少児に教えることで、自信を持つ。
- ・お店やさんごっこの経験を生かし実際に買い物に行き、お店の仕組みやマナーについて知る。

	活動内容
7月5日	「作ってあそぼう」に参加する。(縦割り活動) ⇒年中少児に品物の作り方を教える。(パフェ、魚、腕時計、ブーメラン)
7月14日	「ミニお店やさんごっこ」(年中少児) ⇒「作ってあそぼう」の体験から、年中児が売り手となり、品物(各クラス80個ずつ、計320個)を作る。当日は、年少児が買い手となる。
7月15・16日	「お買い物ツアー」に参加する。(年長児) ⇒近所のスーパーへ各クラスごとに、お泊まり会に必要なものを実際に買いに行く。

③年中少組のお店やさんごっこを通してのねらい

【年中組】

1. 買い手として何が必要か考え、自分たちで作る。
2. 品物を買うことを楽しむ。
3. 年長児に品物の作り方を教えてもらいながら、年長児との関わりを深める。
4. 「お店やさんごっこ」の経験を生かし、年少児を買い手として「ミニお店やさんごっこ」に積極的に取り組む。
5. 売り手としての楽しさも味わう。

【年少組】

1. 買い手として必要なものに気づき、準備をする。
2. 品物を買う満足感を味わう。
3. 「お店やさんごっこ」を通して、年長中児との関わりを深める。

5. 子どもの育ち

《年長組》

◎K男について（3年保育、姉が二人いる。）

	様 子	保育者の関わり・思い
進級当初	たたかいごっこをしたり、体を動かし活発に遊ぶ様子が見られる。友だちに対して、自分の考えを押しつけてしまうところがあり、トラブルになることが多い。	その都度、友だちやK男の気持ちを聞きながら話し合い、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを受け入れられるように、話し合うようにした。
6月7日	<p>《お店やさんごっこの取り組み》</p> <p>各お店の品物作りを体験し、その中でも食べ物を作ることに興味を持ち、「たべもの・おかしや」を選んだ。</p>	
6月10日	<p>《品物作り》</p> <p>品物作りに夢中になり、材料を集める時に順番にとることができず、トラブルになる。</p>	友だちが材料を集めている時は、後ろで待つように声をかけ、順番を守ることを伝えた。
6月11日	材料を集める時の順番を守ることを理解したようで、守れていない友だちに「後ろで待つんだよ。」と声をかけていた。	昨日伝えたことを理解してくれたのだと嬉しくなった。
6月14日	一人で品物作りに取り組むことが多かったが、横割りの活動で、違うクラスの友だちとのかかわりをもつことができ、友だちの意見も聞きながら、品物作りに取り組む様子が見られた。	違うクラスの友だちを受け入れられるようになってよかったと感じた。
7月1日	<p>《当日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんが来ると、一生懸命「いらっしゃいませ！」と声をかける。 ・まだまだ品物が残っている様子を見て、「先生、まだ品物いっぱい残ってるんだけど…」と言った。 ・「これも安いよ！」などと品物が全部売り切れるように友だちと一緒に声をかける。 ・自分たちの作った品物が全部売れたことを友だちと一緒に喜ぶ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなに聞こえるように、友だちと一緒に声をかけてみたら？」 ・いつもは、K男が自己中心的になってしまうが、協力し合い売っている姿を見て、驚いた。 ・友だちと一緒に一つの目的に向かって協力し合う姿を見ることができ、K男の成長が感じられた。

(まとめ)

とても活発で自分の言いたいことや気持ちを友だちに押しつけてしまうことがあり、トラブルになることが多かった。このお店やさんごっこ活動が進むにつれて、友だちの意見も聞きながら品物作りに取り組んだり、友だちと協力するようになった。

現在は、少しずつではあるが友だちも受け入れ、遊びに参加している。また、自由遊び中に横割り保育で仲良くなった友だちとの遊びも楽しみ、友だちの幅も広がった。

◎A男について(3年保育、弟がいる)

	様 子	保育者の関わり・思い
進級当初	<ul style="list-style-type: none">・進級した喜びもあり、仲の良い友だちの前では自分の気持ちを少しずつ伝える姿が見られるようになったが、恥ずかしがり、集団の前で自分の気持ちを表現することが難しかった。	<ul style="list-style-type: none">・思っていることを言える雰囲気を作り、一緒に伝えるなど自信が持てるようにした。
6月11日	<p>《品物作り》</p> <ul style="list-style-type: none">・「やおや・さかなや」で品物作りをすることに決めたが、どんなふうにも魚を作ろうかイメージがつかず戸惑っている。・「わかんないんだよ。」と困った表情をしている。・すると、友だちが作っている姿を見て、材料を取りに行った。・最初は真似ているだけだったが、自分のイメージをふくらませながら魚作りに夢中で取り組んだ。・出来上がると嬉しそうに魚を保育者や友だちに見せる。・みんながA男の魚を見たことによって、友だちがA男に「作り方を教えて！」と集まってきた。・はじめは恥ずかしそうな様子も見られたが、教えていくうちに楽しくなり、嬉しそうに友だちに作り方を教えるようになった。	<ul style="list-style-type: none">・A男が魚のイメージがつかず戸惑っている様子だったので、「どんなおさかなを作りたいの？」と声をかけた。・隣の友だちが作っている魚を指して「こんなおさかなはどうか？」と声をかけた。・「A男くんのおさかな、本物みたいだね。」とA男の作った魚を手に取り、クラスのみんなに見せた。・ふだん、あまり注目されることの少ないA男が、みんなに教える生き生きとした姿が見られて嬉しくなった。

7月1日	<p>《当日》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作った魚が売れる様子を見て嬉しくなり、次々と他の品物売ることに一生懸命になり、楽しく売り手としての活動に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A男が生き生きと品物売る姿を見て、自信につながる様子を感じることができてよかった。
------	--	--

(まとめ)

- お店やさんごっここの品物作りを通して、友だちに認めてもらえたことで少しずつ自信につながっていった。
- 当日は自分の作った品物が売れたことによって、表情も明るくなり、積極的に参加できた。
- 自分の思いを伝えながら、品物作りに取り組んだことによって、自分の意見を伝えられるようになってきた。

《年中組》

C子について(今年の4月入園、5歳離れている兄がいる。)

	様 子	保育者の関わり・思い
入園当初	<p>不安で泣くことも多い。友だちとの関わりは見られず、特に新しい活動は不安がいっぱいで、なかなか活動しようとしなない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手をつないだり、抱いたりするなどスキンシップを心がけ、活動を一緒にする。
6月14日	<p>《お店屋さんごっこの取り組み》</p> <p>年長組の部屋に入った時は担任の後ろに隠れていたが、年長児が作るネックレスの美しさに驚いた様子。他の品物にも興味を持ち、自分から年長児に近づいて「これ、なあに」とたずねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「じょうずだねえ、先生もほしくなっちゃった。C子ちゃんはどう思う。」 ・C子から近づき質問したことに驚く。
6月16日	<p>お財布、お金づくり</p> <p>⇒嫌がらず、自分から泣かずに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく期待しているのだな。今日は見守るようにしよう。
7月 1日	<p>《当日》</p> <p>年長児の案内係と手をつないでお店屋さんに行く。</p> <p>年長児の優しい声に欲しい物を小さな声で伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもは友だちと手をつなぐのを嫌がるのに、今日は大丈夫。でも、威勢のよい呼びこみの掛け声にひるむのではないかと心配。 ・二人の様子を気にしたが、年長児に任せる。

7月 5日	<p>《その後の活動》</p> <p>「作ってあそぼう」に参加する。</p> <p>⇒年長児の手元をよく見てまねてパフェを作る。</p> <p>自分から話しかけることはないが、うなずいて笑っていた。</p>	<p>・同じクラスのY子ちゃんと一緒なので教えに来た年長児に任せることにした。</p>
7月6日	<p>学年集會に参加する。</p> <p>⇒「ミニお店やさんごっこ」について話し合う。</p>	
7月14日	<p>「ミニお店やさんごっこ」に参加する。</p> <p>⇒・登園するなり、「今日おみせやさんごっこだ」とうれしそうに言う。</p> <p>・売り手として品物を手渡したり、手をたたきながら「いらっしゃい、いらっしゃ〜い。」と、小さい声ながら掛け声をかけて、全部売れるとジャンプして喜ぶ。</p>	<p>・今日はとても表情がいいとホッとする。</p> <p>・こんな積極的なC子を見るのは初めて！C子の新しい面を見た。</p>

(まとめ)

- いろいろなところで年長児が優しくしてくれたり、リードしてくれたことにより、不安な気持ちもまだありながら、やってみたいという気持ちが強くなり、意欲的に参加することができた。
- ふだんの園生活でも、自信を持ったことで安心できる場となってきた。
- 自分の思いをことばにして伝える場面も増えてきた。

《年少組》

J子について

(入園当初の様子)

- ・登園時に泣いて、母親から離れられない。
- ・年長組に兄が在園することで、依存する。
- ・友だちとの関わりもなく、友だちのあそびにも興味を示さず、ただ、立っていることが多かった。保育者が間に入ることで、友だちとも行動するようになる。

(お店屋さんごっこを通して)

はじめは内容が分からなかったためか、興味を示さなかった。しかし、兄がいる年長組の品物作りの見学に行ったり、自分でお財布やお金を作っていく上で、興味を持ち始めた。当日は、年長児と一緒に(兄ではない)に手をつないで買いに行ったことで、安心したのか、自分なりにほしいものを買っていた。また、兄が売り手になっていたのも、とても喜んでいました。

(ミニお店屋さんごっこ)

年長組のお店屋さんごっこでお買いものをしたことを覚えていた。

クラスごとに買い物に行ったことで、お店やさんごっこよりもゆとりを持って買い物ができ、保育者が援助をしたことや、クラスの友だちと一緒にだったことによって「これください」「いくらですか」と、言いながら買うことができた。

(現在の様子)

- ・泣くこともなく、笑顔で登園する。
- ・他のクラスの保育者にも興味を持ち始め、手をつないだり、一緒に遊ぶようになる。友だちに対しても興味を持ち始め、少しずつではあるが関わるようになる。そのきっかけがお店屋さんごっこにあったように思う。

6. まとめ

幼稚園という場では、日常生活で友だちとのかかわりの中で気持ちを共有したり、一つのことのできたことで満足感を味わうなど、日々充実感を味わう場面がとても多くある。例えば、友だちと一緒に歌を唄うこと、砂場でトンネルをつなげること、ごっこ遊びの中での役割を果たすこと、逆上がりができること、なわとびをたくさんとべたこと、身近な人に喜ばれたり感謝されたりすることなど、数々の経験をする。これらの経験の中で、子どもたちは喜びを感じ、達成感を味わっている。この感情は、子どもたち一人ひとりにとって自信につながるものである。「お店やさんごっこ」の活動の中でも、子どもたちの多くの喜びや達成感と出会うことができた。品物を作ったり売ったりする子どもたちの表情は自信に満ちあふれていた。

年中少児は日頃の生活の中で、年長児のすごさを目の当たりにし、憧れをもつ。年長児は、その憧れを支えにしているいろいろなことに積極的に取り組み、自信につなげる。このような育ちの積み重ねを大事にして、保育者全員で情報を共有したり相談し合って、これからも援助していきたい。